TSK
カナンの園
104

ノーマリゼーションの源流とは

世界で初めて福祉行政に「ノーマリゼーション」の考え方を反映させ、その実現に生涯をかけた人、デンマークのバンク・ミケルセンは「ノーマリゼーションの父」とも呼ばれております。その歴史的背景として、デンマークがナチスに占領された第二次世界大戦における、レジスタンス運動への彼の体験があるようです。今もドイツ国境の近くに残されている強制収容所に入れられ、その経験で人間として生活する権利の重要性を痛感したことが源流ということです。

その収容所の中でクリスマスの晩に「もみの木」歌が拡声器から静かに流れ、クリスマスを祝うことが出来たことが彼の伝記に記載されております。それは感激的な事実であり、当時は匿名として工夫し、密かにレジスタンスの指揮所に送られたとのことです。

バンク・ミケルセンは収容所の体験から、知的障がい者への福祉政策に「ノーマリゼーション」の考え方を反映させようと、保護者会の方々等の支援を受け、1959年に法的整備が完成したのでした。その理念を継承すべく設立されたバンク・ミケルセン記念財団の理事長は、岩手県一関市出身の千葉忠夫先生で、日欧文化交流学院の院長の傍らとしてデンマークで活躍されております。

千葉先生は、先日「格差と貧困のないデンマーク」という新書を発刊され、その出版祝賀会で、東日本大震災に想いを馳せ、日本復興計画私案を提言しております。その内容の骨子は、行政地区の全国的見直しをして東京一局集中を緩和し道州制導入の検討が必要で、教育、医療、障害福祉の改革とともに、これまでの40％そこそこの食料自給率の改善を提案されております。私達は未曾有の東日本大震災の経験の中で、今まさに日本、各県、各市町村のこれからのあるべき姿が問われていることに気づき、さらにエネルギー施策のあり方等も幅広く論議する必要があると思われます。

カナンの園におけるケアホームの建築がお陰様で順調に進んでおり、全国から多くの支援が寄せられていることに心から感謝申し上げます。「地域移行」はノーマリゼーションの理念の実現の第一歩であること心に留めて、カナンの園将来像を見直す作業を始めたいと願っております。一層の御指導・御鞭撻をお願い申し上げますとともに、多くの方々からの御理解と御支援に重ねて感謝申し上げて挨拶に替える次第です。

社会福祉法人カナンの園理事長　及川忠人

三愛学舎の役割

3月11日の大震災にあわれた方々に、心からお見舞い申し上げます。3カ月もたったのにまだ避難所で不自由な生活をされている方々のことを思うと、一日も早い復興を心からお祈りいたします。

三愛学舎では、3月12日が卒業式の予定だったのですが、11日の震災によってライフラインの被害で実施することが出来ず、個々にまわって卒業証書を手渡すことになりました。

専攻科卒業の皆さんは、それぞれの道に進むことが出来、感謝です。

今年度も、三愛学舎は皆さんからの温かいご支援をいただき、71名が学んでおります。本科二年生も入学後3カ月にもなりますので、すっかり学校生活にも慣れて、本来の教育活動に励んでおります。

三愛学舎も創立33年を迎え、教室が老朽してきております。また、当初の本科30名定員から専攻科を設置し、50名定員になり、そして2004年には各クラス15名の定員増にし、本科、専攻科合わせて75名定員になりました。したがって、教室等が手狭になったこともあって、ここ数年の内に新校舎建築の必要性も出てきました。その準備も考えていかなければなりません。

また、本科、専攻科とも、生徒の能力を引き出すための芸術活動も盛んになり、県下の「いわて・きららアート展」に出品して「きらら大賞」「優秀賞」「奨励賞」等の受賞作品も多くなっています。これからも、さらに芸術活動を充実していくための場として、芸術活動教室の計画も進めているところです（その中には、窯業用の焼き窯を設置するなど夢をふくらませています）。

こうした取り組みを考えながら、生徒の皆さんに内在する力を見つけ、伸ばすことが、将来の生徒の成長につながっていくものと考えながら、全教職員心を一つにして、教育活動の充実をはかっていく努力を重ねています。

学校法人カナン学園理事長　猪苗代正憲

No.104
発行日／2011年７月15日
編集／社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.com/
E-mail／info@canaan-jp.com

NEWS

●――ヒソプ工房

ドラマは現場で起きている

ヒソプ工房の新しい仕事として昨年11月より㈱アオバヤさんより委託された「ポスティング」作業に取り組んでおります。盛岡市内の福祉事業所の中で同じくポスティング作業に取り組んでいる所も多くあり、ちょっと流行りの仕事でもあります。〝ポスティング〟って何？…指定された地域の一般家庭やアパート、商店や企業さんへ広告や盛岡市広報などをお配りする仕事です。

ヒソプ工房は、当事業所が所在している「大館町」を配布担当地域として約400軒を配布しております。ポスティングは、各建物のポストに1枚ずつ入れていく事だけです。しかしながら、〝ドラマは現場で起きている〟のです。普段の生活で自宅のポストから新聞や手紙を取る（受け取る）事はあっても、実際に投函する機会は少ないのです。ましてや、現在の各家庭には、多種多様で様々な色、形、場所のポスト（今はメールボックスかな?）があります。まずは、そのポストを現場で探さなければなりません。手掛かりは、郵便記号〝〒〟です。全国共通のマークは、こんなときに助かりますね！「このポストは、上から開けるの？　下から？　…扉を引くんだね！」。四苦八苦しながら、約4時間あまりひたすら歩いて回ります。寒い日も暑い日も、雨だろうが風だろうがです。そんなスタートから現在8カ月が経過し、地域の方々から「いつもご苦労さん」と声を掛けられるまでになり、お会いする人に「広告どうぞ！」と自然なやり取りも様になってきています。これから暑い夏の季節を目の前に、一歩一歩、大館町の地を踏みしめながら地域の皆さんと挨拶を交わしながら、冷たいお茶を飲む瞬間の喜びを期待して〝がんばろう〟と思います。

（ヒソプ工房　佐藤友）

炎天下の中・・・暑さニモマケズ

●――カナン牧場

評議員になって見えてきたもの

私は、昨年の12月にカナンの園の評議員に就任し、先に2度行われた評議員会に出席しました。そこで感じたのが、今のカナンの園の現状や、カナンの園の未来像が少しずつ見えました。私はカナン牧場に入って6年になりますが、これまでのエピの会の活動が法人の心を突き動かし、エピの会から評議員を出してほしいという要請を受けたのだと思います。エピの会の活動が評価されたのだと励みになりました。※エピの会で話し合い、私が評議員として選ばれました。

私が今、法人に対して思っていることは、「カナンの園がこれからどうなればいいのか」と言うことです。それを考えて、たどりついた答えが「カナンの園に連なる全ての人たちが地域の中で、健常者と変わらない普通の生活をするために何ができるか」という答えでした。地元で両親と暮らしたい、働きたい、といった願いや、このまま自立して生活したい、といった願いがあることは、一人ひとりが共通した願いだと思っています。

そのために私は何をすべきかを考えました。まずは、いま本人たちがどんなことを考えているのかを自分自身が知ること。これは、一人ひとりにどんな考えや、願いを持っているのかを、評議員工藤靖明として聞いてみて、こんな考えを持っているんだというのを実感することです。もう一つは「つながりの強化」を模索していくこと。これは、本人たちがこんな願いを持っていて、カナンの園はどう応え、どういうプロセスで実現させるかを考えつつ、「支援計画を作って、はい終わり」ではなく、そこから先を考えたときに、地域とカナンの園がどうつながるかを知ることです。一人ひとりの夢の実現のために自分に求められる役割は何かをこれから考えていきたいと思います。

※エピの会は、カナン牧場従業員の皆さんの自治会の名称。

（カナン牧場　工藤靖明）

評議員に選ばれた工藤靖明さん

●――三愛学舎
土を愛する

三愛学舎では4月7日に入学式を行い、男子9名、女子5名の計14名の新入生を迎えました。入学当初は新しい環境に慣れていないこともあり、緊張した様子が多かったですが、今では仲良くなり様々な学校活動に意欲的に取り組んでいます。

その中で本科一年生では、今年の総合学習のテーマを「食」と題してクラス菜園に取り組んでいます。自分たちが作ったものを食べることで、食べ物の大切さを感じとり「三愛精神」の一つである「土を愛する」を心とからだで体験しています。

6月2日はクラス活動として、田植え体験をしました。当日は天気も良く絶好のコンディションの中で、田植えをすることができました。裸足になって、田んぼに入り、苗を植えました。初めての田植え体験の生徒がほとんどで、ぬかるんだ田んぼに何度も足をとられ苦戦しながら苗を植えていきました。事前にロープを張り、基準線に沿ってまっすぐ植えたはずなのですが、終わってみればまがりくねっていました。それでも生徒の顔には達成感が漂っていました。

基準線に沿って

土に愛されて、土を愛して…

今回の田植えのテーマはもちろん、「土を愛する」を心と〝からだ〟で体験することでした。2人の生徒が田んぼに身をゆだねていました。まさに、土に愛されているようでした。秋には収穫し、もち米一俵がとれる予定です。今からどんなおもちにして食べようか、クラスでは思いが広がっています。

（三愛学舎　山本陽逸）

●――ののさわ
ケアホーム建築と……

4月21日、震災の影響から1カ月遅れではありましたが、新たに2棟のケアホーム（CHよつば、CHまきば）が完成しました。その後4月28・29日、5月1・2日に職員総出による引っ越しを行い、新しい建物での生活がやっと始まりました。改めて遅くなりましたが、保護者を始め後援会等多くの方々の支援に感謝申し上げます。

今回のケアホームは、二戸町の町営住宅や診療所が隣接する町有地をお借りして、地域資源や医療機関への利便性を考慮した場所に建設されました。コンビニ等の商店も近く、既に一人で買い物に出かけている人もおります。また、利用者の中には車イスを使用している人もおり、介護用のお風呂を備え車イスからの入浴もスムーズに行える等、利用者本人や介護するヘルパーの負担に配慮した設計となりました。

5月17日、完成し、引っ越したばかりのCHまきばのN・Sさんが亡くなりました。生前のN・Sさんは重い持病から医療や介護等色々な配慮を必要としており、〝安心して長く暮らせるケアホーム〟建築に私たちの思いを結集させた一人でもありました。約2週間ではありましたが、完成したばかりのホームで暮らすことが出来ました。支援の充実は当然ですが、少しでも快適な住環境を提供出来たのではと感じています。

中条キャプレンに祝福して頂きました

新ケアホーム完成!

今年の夏、秋にそれぞれ残る2棟（CHあゆみ、CH丘の家）が落成する予定となっており、すべてのホームが旧入所施設の敷地から出て新しい建物での生活となります。これからは、建物だけではなく新しい支援を再構築していく必要があると思われます。

彼女の死に哀悼の意を表しつつ、新ケアホーム落成の報告とさせて頂きます。

（ののさわ事業所　笹森雅弘）

ことばひろい　第３回

「ほっといてください…」

生活支援センター
副センター長　山舘憲行

在宅で生活しているMさんは、7人兄妹の長男として生まれ、地元の中学校を卒業後は、畜産業・建設関係などの仕事をこなしてきた。7年前に脳梗塞で、左半身が不自由になり、自宅に閉じこもる生活が多くなった。働いているころから好きであったアルコールに依存的になってしまい、そのころから精神症状も発症するようになり自殺未遂などで入退院を繰り返すようになってきた。

そのような彼との出会いはケア会議を受けての昨年10月。精神科の通院と週2回の入浴支援をすることになった。入浴支援の初回訪問時に、「死にたい」と絞り出すような声で言うことがあった。一瞬私は何を言われたか分からず、何度か聞き返してしまったが、よくよく聞いてみると確かに「死にたい」と言っているのである。気が動転してしまってどう答えていいか分からず、会話をごまかし、機械的に入浴支援に入ってしまった。私の動揺ぶりはMさんに伝わってしまったと思う。

Mさんに「死にたい」という言葉を投げかけられて、何もできなかった自分に悶々とした日が過ぎたが、その後も入浴の訪問時は「入りません」といい、通院支援の時は「行きません」と拒否することが殆どであった。ヘルパー泣かせと言えばヘルパー泣かせなMさんなのである。何回目かの通院の時、先生から「家に閉じこもってばかりいないでKに通ったら?」と勧められることがあった。何度勧められてもMさんは「行きません」の一点張り…。「じゃ何したいの?」と聞かれると「家でボーッとして過ごしたいです。ほっといてください」と答えたのである。ヘルパーの仕事に限らず我々の仕事は本人の了解を得なければ事は進まない。私たちは「あなたの日中の活動は、こうあるべきだとか、あなたの生活はこうあるべきだとか」というように接してしまうことが多いのではないだろうか。

私はこの仕事を通して、利用者の姿は将来の介護される自分の姿だと思うようになってきた。よく「共に生きる」とか言われるが、考えてみれば誰とも関わらず一人で生きていける訳でもない。人は皆誰かの世話になって生きていかなければならないのである。そのような当たり前のことをMさんは教えてくれているように思う。

相変わらず訪問時には支援を拒否するMさんであるが、「心配でほっといて帰れないんですよ」というと、頑固一徹のMさんは折れてしまうことが多く、「ありがとう」という表情をしてくれるのである。そのようなMさんの優しさというか人間性には感心させられるのである。

初回の訪問の時のように「死にたい」ということは言わなくなった。今は「もっと強くこすってけろ」とか「~してけろ」ということが多くなった。これからもMさんの満足気な顔が一つでも多くみられるようにお手伝いしていきたいと思っている。将来の自分の姿を重ねながら…。

愛用の電動カーで自由に出かけるのが楽しみです。

からし種

※１粒のからし種は約１～２㎜
（聖書　マタイ伝 13：31）

心あたたまる　小さなお話

夫婦漫才?

K君「ツタンカーメンは」と質問され「エジプトです」と答える。K君に「指輪をはめたら?」と質問する。「⁉　指輪?　え～と…」答えに戸惑う。K君「取れなくなっちゃう」と先に答える。私「(あっまた先に言われたぁ)」。

K君にはお気に入りの言葉遊びがあり、自分で質問をし、自分で答えを決めている。K君はいつでも笑って答えを教えてくれる。私は卒業までに夫婦漫才のようにうまくやりとりができることを夢みている。K君「ナポレオンは」「スペイン!」。K君「フランスです」。夢は遠い…。

（三愛学舎　菅生あかね）

春の笑顔

桜咲く春になると気分も高まり、笑顔になるN・Tさん。まってましたぁ～‼　と言わんばかりに職員の手を取りお出掛けサイン!　休みの日のドライブでは外の景色を見ながら「あい～‼」とニコニコ笑顔が絶えません。大好きな春と共にTさんも一年がスタートです。

Tさんと生活を始めて2年。彼の陽気な姿を見た時、ホームで静かに過ごすTさんとの様子の違いから、本当はとても陽気な方なのだと感じました。Tさんのこの姿を見ると、今年も春が来たなぁ～と感じます。桜が散り、緑が広がり始めると徐々に静かな様子に戻るTさん。夏には散った桜の数だけ楽しいお出掛けをしましょうね!

（ののさわ事業所　安ヶ平淳一）

新しい朝

シャロームから歩いて10分ほどの所にある、私の住んでいる町営住宅のすぐ隣に、新しいケアホームが建ち、〝よつば・まきば〟のメンバーが引っ越してきました。Tさんもそのお一人。今までは、シャロームから少し遠く、車いすを使用していることから福祉車両で通勤していました。お隣になれたので、〝一緒に出勤しましょう!〟ということになり、天気の良い日には、初夏の風を受けながらシャロームへ向かいます。お散歩している近所のおじいさん、おばあさん。出勤途中の方々、保育所の前を通ると子どもたちが元気に〝おはよう!〟と挨拶してくれます。その一人ひとりに笑顔で答えるTさん。たくさんの方々との触れ合いに、心温まる気持ちのよい朝が始まります。

でも、あんまりのんびりしていると・・・二人で遅刻しちゃうかも?!

（シャローム　尾崎恵梨）

ふれあい

外部販売を担当し、企業や学校、幼稚園などに出向き、たくさんの方たちと関わり、仕事をしているMさん。販売を終え、帰り道。ほっと一息かと思えば、その日の様子や、今後の作戦の話が飛び交う車内。そんな中、「むかしは、人と関わることすきじゃなかったけど、けっこう楽しいね」と、一言。日々の仕事を通じ、人とふれあう楽しさを、からだで、こころで感じているようです。

（となんカナン　伊藤いずみ）

仲間☆

私がヒソプで働いて2カ月が経ちました。毎日、利用者の方々とクッキーづくりをしています。

そんな3課のメンバーは、優しくて、クッキーの形成が上手なIさん。課のまとめ役Mさん。一つ一つの作業が丁寧なSさん。笑顔が素敵で照れ屋なMさん。歌と踊りが大好きなAさん。いろんな話をしてくれるEさんの6人です。

たくさんの注文が入っても、生地づくりから袋詰め、ラベル貼りを、一人ひとり責任を持って行います。一緒に作業をしていて、みんな仕事が好きなんだなという気持ちが伝わってきます。私も6人に負けないよう、これから頑張っていきたいです。

バタバタと1日が終わる中、ニコニコして私の方を見ながら踊り始めるAさん。作業終了間際に始まる彼女のショータイムが私の一番好きな時間です。

（ヒソプ工房　小林恵梨）

カナンの園2011年度の事業

1. 運営方針

2010年度を終える直前の3月11日、未曽有と言われる大震災が起きました。私たちカナンの園の関係者の中にも大切な家族や知人、家屋を失った者を始め、様々な形で被災した者たちが出ました。神様からの慰めと一日も早い回復、復興を願うばかりです。カナンの園では、震災当初より何が出来るかを問い続けて参りました。長く継続した取り組みが求められており、理念に立った対応を問い続けたいと思っております。

来年、カナンの園は設立40年という節目を迎えます。制度の裏付けとなる法制度は国レベルでの議論が進められて来ているものの、流動的な社会状況は続いています。このような時期だからこそ今一度、法人設立の原点に返り、その願いを具現化するための歩みとしたいと思っております。

また、防災や日々の安全管理に対する危機管理体制の見直しと対策の再構築が求められており、順次具体的な作業に着手します。すでに取り組み始めた第三者評価も利用しながら、各現場の実情に即した対応を目指します。

2008年度から次代を担う人材育成を願って5カ年計画で開始したデンマーク研修も、4年目を迎えます。過去3年間に学んできたことが各現場での意識改革や将来像の構想につながりつつあり、更に継続した学びと成果を期待したいものです。

2. 運営の重点

（1）組織運営の強化を図るために以下の方策を取ります。

①理事会と現場とが課題を共有し、対応できる運営を行います。

特に各事業所で第三者評価を受審し、組織運営の強化を図ると共に、リスクマネージメントのシステムを構築します。

②チャプレンの働きを充実させると共に、健康管理体制の充実を図ります。

③職員の人材育成と実務技術力の向上に取り組みます。

（2）法人設立40周年を控え、カナンの園の将来構想を検討します。

①中山地区、盛岡地区での利用者ニーズ、各事業所の役割を整理し、今後の事業展開や再編成を検討。奥中山学園での児童ディサービス開始など、可能なものに着手します。

②2年目を迎える「となんカナン」の事業展開を法人全体で進めます。

③ののさわ事業所のケアホームの建替えを順次行っていきます。

④上記に加え、関係諸機関との連携の中でカナンの園の役割を改めて問い、「第6次カナンの園将来構想」策定を進めます。

⑤法人設立40周年記念事業の準備を開始します。

社会福祉法人カナンの園役員（担当）

理事長
及川忠人（人事）

理事長代理
本間邦彦（安全管理・カナン牧場）

理事長代理
佐藤孝悦（教育研修・法制、安全管理・ヒソプ工房）

常勤理事
藤村正治（人事）
澤谷常清（人事、教育研修・法制）
佐藤真名（人事、教育研修・法制）

理事
齊藤芳弘（広報、組織、シャローム・ウィズ・支援センター）
中条和哉（人事、教育研修・法制）
坂水かよ（組織、教育研修・法制、となんカナン）
真山重博（広報、安全管理、ののさわ・小さき群の里）
原田千恵（組織・奥中山学園）

監事
花松行雄
菅野督巳
種田勝

チャプレン
中条和哉

2011年度　社会福祉法人カナンの園施設管理者

●法人事務局
事務局長　佐藤真名
事務長　岡田正弘

●奥中山学園
園長　佐藤真名
副園長　岡崎俊彦

●小さき群の里
施設長　藤村正治
副施設長　戸田睦子

●ののさわ
施設長　藤村正治
副施設長　鈴木直人

●ヒソプ工房
施設長　阿部孝司
副施設長　浅沼俊一

●カナン牧場
施設長　菅生周一
副施設長　戸田清志

●シャローム
施設長　北村嘉孝
副施設長　薄正仁

●ウイズ
施設長　佐藤研司
副施設長　薄正仁

●生活支援センター
センター長　佐藤研司
副センター長　山舘憲行

●となんカナン
施設長　菅生周一
副施設長　栃内恵子

学校法人カナン学園役員

理事長　猪苗代正憲
理事　本間邦彦
及川忠人
齊藤芳弘
角谷晋次
澤谷常清
監事　栗田良実
花松行雄

学校法人カナン学園

●三愛学舎
校長　澤谷常清
副校長　伊藤和彦

社会福祉法人カナンの園 2010 年度 決算報告（単位：円）

1. 社会福祉事業会計

本部会計、奥中山学園、小さき群の里、ののさわ、ケアホームＨＡＮＡ事業所、同美空事業所、居宅介護事業れもん事業所等の各経理区分を合算したものです。

貸借対照表

平成23年3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産（注：①）	282,493,585	流動負債	32,864,629
固定資産（注：②）	663,380,986	固定負債	41,398,525
		負債の部合計	74,263,154
		純資産の部	
		基本金	395,581,299
		国庫補助金等特別積立金	212,425,304
		その他の積立金	122,622,788
		次期繰越活動収支差額	140,982,026
		（内、当期活動収支差額	73,033,005）
		純資産の部合計	871,611,417
資産の部合計	945,874,571	負債・純資産合計	945,874,571

事業活動収支計算書

（平成22年4月1日～23年3月31日）

事業活動収支の部（注：③）	
収入	584,164,685
支出	501,514,441
収支差額	82,650,244
事業活動外収支の部	
収入	91,793,401
支出	112,610,963
収支差額	－ 20,817,567
特別収支の部（注：④）	
収入	33,750,000
支出	22,549,672
収支差額	11,200,328
当期活動収支差額	73,033,005
前期繰越活動収支差額	68,332,271
当期末繰越活動収支差額	141,365,276
基本金・その他の積立金取崩額	51,900,000
基本金・その他の積立金積立額	52,283,250
次期繰越活動収支差額	140,982,026

注：
①現金預金は11経理区分160,886千円、未収入金は自立支援給付2・3月分　116,146千円及び利用料等になります。
②基本財産は、土地51,457千円、建物402,623千円。その他の固定資産として退職共済預け金21,398千円,積立金88,639千円等です。
③（ア）一般寄付金は12,355,291千円でした。（前年比2,000千円増）内訳（施設利用者指定寄付819千円、ケアホーム建設の為の寄付金3,406千円、法人活動の為の寄付金6,567千円）（イ）施設指定寄付金は1,563千円（ウ）事務局経費は5,584千円でした。

2. 就労支援事業会計

ヒソプ工房、シャローム、ウィズ、カナン牧場、となんカナンの各経理区分を合算したものです。

貸借対照表

平成23年3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産（注：①）	199,011,022	流動負債	22,671,228
固定資産（注：②）	575,355,877	固定負債	56,180,525
		負債の部合計	78,851,753
		純資産の部	
		基本金	113,658,408
		国庫補助金等特別積立金	275,546,885
		その他の積立金	38,000,000
		次期繰越活動収支差額	268,309,853
		（内、当期活動収支差額	36,311,932）
		純資産の部合計	695,515,146
資産の部合計	774,366,899	負債・純資産合計	774,366,899

事業活動収支計算書

（平成22年4月1日～23年3月31日）

就労支援事業活動収支の部（注：③）	
収入	173,769,441
支出	194,377,177
収支差額	－ 20,607,736
福祉事業活動収支の部	
収入	313,793,153
支出	275,097,009
収支差額	38,696,144
事業活動外収支の部（注：④）	
収入	25,632,775
支出	6,535,814
収支差額	19,096,961
特別収支の部	
収入	1,416,199
支出	2,289,636
収支差額	－ 873,437
当期活動収支差額	36,311,932
前期繰越活動収支差額	214,486,050
当期末繰越活動収支差額	250,797,982
その他積立金取崩額	23,511,871
次期繰越活動収支差額	268,309,853

注：
①現金預金は118,707千円、未収金は自立支援給付2・3月分及び利用料51,448千円、売掛金15,077千円、他は原材料等です。
②基本財産（建物）は423,382千円、退職共済預け金10,980千円、移行時積立金9,000千円等です。
③就労支援事業収支では、ヒソプ工房が－39千円、シャローム1,319千円,ウィズが2,139千円、ハピネスが－70千円、カナン牧場が－22,232千円、となんカナンが－1,725千円となりました。
④支出は、福祉・医療機構借入金（ヒソプ工房、シャローム、カナン牧場）の利息返済及び他経理区分への繰入金です。

編集者　社会福祉法人カナンの園
〒〇二八―五一三三　岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七　☎〇一九五―三六―一〇二六

発行所　東北障害者団体定期刊行物協会（略称ＴＳＫ）
〒九八一―〇九〇七　宮城県仙台市青葉区高松一丁目四―一〇　頒価百円

EVENT CALENDAR　7月～11月

●―――共通行事
7／30　カナンの園修養会
8／6～14　海外研修派遣
9／17　第39回奥中山地区カナン祭
9／23　第20回ヒソプ工房カナン祭
11／18　創立記念礼拝

●―――奥中山学園
7／23～8／20　夏休み

●―――小さき群の里
8月上旬　夏旅行
8／28　立教大学ワークキャンプ（予定）
9／3　立教大学ワークキャンプとの交流会（予定）
10／29　収穫感謝礼拝

●―――ののさわ
8／12～17　夏期帰宅

●―――ヒソプ工房
7／23～24　一泊旅行
8／12～16　夏期休暇
8／20　クラブ活動
9／17　クラブ活動
9／23　ヒソプ工房カナン祭
10／15　クラブ活動
10／28～29　秋期職員研修
11／10　健康診断
11／19　クラブ活動

●―――カナン牧場
8／10～16　夏期休業

●―――シャローム
7月上旬　1泊旅行
8／13～16　夏休み

●―――ウイズ
8月上旬　ご苦労さん会
8／13～16　夏休み
10月中旬　見学・体験
11月下旬　ご苦労さん会

●―――生活支援センター
7／31　地域保護者会奉仕作業、懇談会

●―――となんカナン
毎週日曜日　礼拝
毎週月曜日　休業日
7／2　家族報告会
7／23～24　地域交流サンフェスティバル
7／30　臨時休業（修養会）
8／13～16　夏期休業
11／10　健康診断

●―――三愛学舎
7／21　西岳登山（本科）
7／25～8／19　夏期休業
8／30～9／1　専攻科2年生卒業旅行
本科全校農業②
9／1～2　専攻科1年生研修旅行
岩手県特別支援学校スポーツ交流大会
9／28　前期終業式
9／29～30　前期末休業
10／3　後期始業式
10／11～12／2　専攻科後期Ｉ職場（校内）実習
10／19～20　本科１年生研修旅行
本科２年生研修旅行
11／14～12／2　本科３年生進路協議

●お知らせ

第39回奥中山地区カナン祭
9月17日（土）10：00～15：00
▼お問い合わせ先
小さき群の里　担当：猪又
電話　0195-35-2232
Eメール　sato@canaan-jp.com

第20回ヒソプ工房カナン祭
9月23日（金）10：00～15：00
▼お問い合わせ先
ヒソプ工房　担当：小林
電話　019-646-8581
Eメール　hisopu@canaan-jp.com

ののさわ事業所第3第4ケアホーム並びに奥中山学園作業棟落成式

昨年10月19日に起工式を行いました二つの工事が無事終了いたしました。
東日本大震災の影響もあり、6月2日に両工事の落成式を関係者の見守る中、行うことが出来ました。皆様のご支援に感謝いたします。

中野晴子さん逝去（47歳）

奥中山学園開始当時からご利用頂いておりましたが、去る5月17日入院先の岩手医大付属病院で召されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

あとがき―――震災後、多くの方々の祈りと励ましに支えられて、日々の暮らしを普通に営むことの大切さを痛感いたしております。皆様のご支援に感謝申し上げます。（岡田）

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンの園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

カナンの園法人事務局
〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.com/
E-mail／info@canaan-jp.com

本誌は再生紙を使用しています。

社会福祉法人カナンの園

奥中山学園（児童入所）
☎0195-35-2314・FAX 0195-35-3406
生活介護事業所　小さき群の里
☎0195-35-3080・FAX 0195-35-3080
共同生活介護事業所　ののさわ
（ケアホーム1～6）
☎0195-35-2232・FAX 0195-35-3405
生活介護事業所　ヒソプ工房
盛岡地区ケアホーム（1～4）
☎019-646-8581・FAX 019-646-8582
生活介護事業所　シャローム
☎0195-35-2883・FAX 0195-35-2884
就労継続支援B型事業所　ウィズ
☎0195-36-1120・FAX 0195-36-1121
多機能型事業所　カナン牧場
☎0195-35-2583・FAX 0195-35-3145
共同生活介護事業所　美空
（ケアホーム1～10）
☎0195-35-3844・FAX 0195-35-3840
居宅介護事業所　れもん
☎0195-35-3844・FAX0195-35-3840
多機能型事業所　となんカナン
☎019-681-3004・FAX019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎（特別支援学校・知的）
☎0195-35-2231・FAX 0195-35-2781